

令和5年度 第1回川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会 報告書
～人と人をつなぐために、他の企業や団体と連携して何ができるかを考える～

日時：令和5年9月1日（金）16：00～18：00

場所：第4庁舎ホール及びオンライン 併用開催 参加人数：45人（事務局を除く。）

地域包括ケアシステム構築に関する行政の取組報告、市内の活動紹介の後、8グループ（会場5、オンライン3）に分かれてグループディスカッションを行いました。各自の意見をグループ内で共有・整理し、最後に全体に向けて発表し内容を共有しました。

伊藤副市長挨拶

皆様、連絡協議会にご参加いただきありがとうございます。2025年が本市地ケアの第2段階のひとつの区切りとなります。第3段階に向けてこれから議論を進めていくわけですが、そうした中で100を超える参画団体の皆様が様々な立場で、持てる資源を寄せ合いながら地ケア構築に向けて有意義な議論ができますことを期待しています。最後までお付き合いのほどよろしくお願いいたします。



田中座長挨拶

地域包括ケアシステム、日本の大都市の中では川崎市が一番進んでいます。全国の地域包括ケアシステムの進捗状況を聞くと、ここまでサイズが大きい100万都市でこのような見事な会ができて、特に企業の方が加わっている会ではトップだと思います。あまり現実に捕らわれることなく、思い切った発言で夢を語ってください。期待しています。



川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組（地域包括ケア推進室）

(1) 地ケア構築が必要となる背景

- ・高齢化の進展、少子化の進展、地域関係の希薄化が進み社会全体で様々な問題が表面化しており、今後そうした問題への対応がますます必要になる。
- ・そのため、セルフケアや重度化防止による「生活課題の縮減」、多様な主体の活躍等による「支援体制の効率化」、支え合いの関係の回復による「地域力の向上」を進めている。

(2) 地ケアの構築に向けた市の取組

- ・基本理念である「誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現」を目指し、意識づくり、地域づくり、仕組みづくりの3つの視点から、分野横断的に進めている。
 - ① 意識づくり
 - ・セルフケア（健康づくりや相談先の周知など）、見守り・支え合いの意識の醸成 など
 - ② 地域づくり
 - ・住環境の整備や近隣とのつながりづくり、生活支援の担い手づくり など
 - ③ 仕組みづくり
 - ・効率的・効果的にケアを提供するための取組、地域資源の状況把握等のマネジメント など

(3) 現状と課題

- ・セルフケア・介護予防の意識の高まりの一方で、地域のつながりづくりや活動参加に向けた意識の低下
- ・地域活動の継続を困難と感じている団体の増加
- ・支援の担い手である専門職等の人材不足
- ・複雑化・複合化したニーズや制度の狭間になるニーズの増加による「困りごと・生きづらさ」の多様化

(4) 今後の取組の方向性

- ・第3段階に向け、デジタル化・スマート化等の社会変容を踏まえた取組や、予防的な視点を重視し、民間企業等も含めた地域の多様な主体による誰一人取り残さない包括的な支援体制づくりを進める。
- ・「かわさき TEKTEK」について。10月開始予定の健康ポイント事業。様々な環境においても継続して取り組みやすいウォーキングで、市民の健康意識を高め、健康行動の習慣化を促進する。また、運動の成果を本人だけでなく地域社会や子ども達に還元することができる。

(5) 連絡協議会の取組

- ・介護離職防止等リーフレットの作成(令和4年度)
- ・民間サービスの周知・活用に向けたイベントの開催を予定

地域包括ケアシステムに関する市内の活動紹介

～明治安田生命保険相互会社川崎支社 石川隆英氏～

(1) 川崎市との地域連携協定の締結

- ・令和3年2月19日、川崎市と「健康づくりの推進並びに各種健康診査及び検診の受診に係る包括的連携に関する協定」を締結。川崎市民の健康増進、市内企業に勤める方の健康増進、がん検診受診率の向上の3つを軸に活動。

【連携・協力事項】

- ①健康づくりや介護予防等の自発的な活動を促進するための普及啓発
- ②各種健康診査・検診に関する正しい知識の普及啓発及び受診勧奨
- ③上記の取組を推進するためのイベント等における資料提供等
- ④その他健康寿命延伸に関する取組

(2) 地域課題解決に向けた取組

- ・企業向けに健康増進イベントや測定器を用いた健康の意識啓発、市民館で健康に関する講座の実施、市民祭り等の祭事で測定会の実施、またタイトルパートナーを担っているJリーグと協働して健康活動等を実施した。2022年は総勢約14,000名に健康に関する意識啓発を行った。

(3) 行政サービスの案内

- ・地域とのつながりは健康や幸福に必要な要素であり、患者を地域資源に結び付けて健康やQOLを回復させる仕組みである社会的処方考え方に賛同する中、その抱える課題への対応もしつつこの考え方を有効に活用するために弊社にできることは何かを考え、このサービスが始まった。
- ・営業職員が持っているタブレットに行政サービスの情報を取り入れ、訪問したお客様に案内している。また、活動の中でヒアリングした内容を定期的に川崎市へフィードバックしている。

(4) できること

- ・職員が実際に訪問することから潜在的なニーズを掘り起こすことが可能。
- ・新しい行政サービスを個人で調べるのは難しいが、案内することができる。一歩踏み込んだおせっかいで行政サービスにつなげることが可能。
- ・生命保険会社であることから、ライフイベントの節目に応じて情報提供することが多く、その時期は地域の支援が必要となるタイミングと重なる。適切な時期に適切なアドバイスが可能。

田中座長講評

短い時間で見事にまとめていただきありがとうございました。共通したキーワードは「多世代・全世代」。お年寄りだけ集まるよりも子どもや赤ちゃん、若い元気な人もいたほうが楽しい。また医療・介護に関する相談ができる仕組みは既にいろいろあり、そのためにカフェを作る必要はない。もっと軽く集まれる、そして自ら「体験・参加できる」というのもキーワードです。また上位目的があったほうが良い。多世代であるとかみんなで料理をするというのはツールであって、この集まりの上位目的は何かということ。また、専門的な観点からいうと栄養はすごく大切です。中年世代は太りすぎかもしれないし、70歳以上の女性の4割がやせ過ぎという統計も出ており、「栄養」というのもキーワードになります。皆さんの発表にそれらの言葉が揃っていたのが嬉しく思います。この会がますます発展していくような、川崎市の底力を感じました。

市長挨拶

本日も、このように多くの方にご参加いただいたことに感謝します。

皆さんの発表を聞いて学生時代のことを思い出しました。小学生からボーイスカウトをやっていましたが、日本ではキャンプに行くとき年長者が火を付け、中間層が料理をし、一番年下は薪拾いと役割が完全に階層別でした。高校でアメリカに行くと、そこでは薪を拾いたい人は薪を拾い、料理をしたい人は料理と年代関係なく取り組んでいました。好きなことは上手にやるのが最適な形となります。どちらのキャンプも楽しく快適に過ごしたいという目的は変わりませんが、これは得意、これは好きというものを集めるともっと最適で快適なキャンプができたのだと気が付きました。今日の発表を聞いて、例えば美しくなりたいという目的のためには誰を集めたらいいのか、あるいはこれを好きなのは誰だろうかということを重ね合わせて引っ張ってくると、その目的に最短でいくのではないかと思います。企業の皆さんはこの仕事で人々を幸せにするという目的があるはずで、それをうまく組み合わせることができれば、行政も市民の皆さんも企業の皆さんも最適値を見つけることができるのではと、皆さんの素晴らしい発表を聞いて感じました。さらにレベルアップして頑張っていきたいと思いますので、引き続きご協力をお願いいたします。



ディスカッションで話し合いました！～人と人をつなぐために、他の企業や団体と連携して何ができるかを考える～

市内で活動する保健・医療・福祉関係団体、市民公益活動団体、青少年支援団体、民間企業（鉄道、運輸、電気・ガス、配達飲食サービス、金融等）、大学等研究機関等、多種多様な団体からの参加者が8つのグループ（会場 5グループ、オンライン 3グループ）に分かれ、グループディスカッションを行いました。今回は、前回実施した2つの事例検討の結果を受け、各企業・団体が所有している資源を組み合わせ「カフェ（＝地域に暮らす様々な年代・環境の人が集まれる場所）」を作るという内容で、グループ内で資源を出し合い、出来上がったカフェを発表しました。

Aグループ（オンライン）

「赤ちゃんからお年寄りまで みんなでいきいき“つながる”カフェ」

- 【内容】**
- ・様々な世代の人が集まり、情報交換をする。ママ世代とこれから育児を経験する世代のつながり、高齢者も受け身だけでなく自身の体験を話すことでお互いがつながり、いきいきできる。
 - ・世代を超えた交流。赤ちゃん向けの手遊びは高齢者にとってもいい。
 - ・曜日ごとに専門家による講座を開いて健康に関する知識も得られる場にする。
- 【広報】** 薬局にポスター（処方箋を待つ間に周知）
- 【場所】** コープ内のコミュニティルーム
- 【物品】** コープの商品を利用

B・Cグループ（オンライン）

「〇〇（地域名）多世代交流カフェ」

- 【内容】**
- ・子育てママと高齢者が集まるイメージ
 - ・愛着を持ってもらうため地域名を入れる。
 - ・自社サービスだけでなく、社員の特技(楽器演奏や落語等)を活用して人が集まる場を作る。
 - ・カフェでの会話で吐かれた悩み事に対して、演奏者が実は福祉関係者で悩みが解決できる等
- 【場所】** 地域交流スペースや信用金庫の施設内など利便性の良い施設
- 【広報】** チラシ配布(障がい者施設で制作)
- 【物品】** 棺桶体験

Dグループ（オンライン）

「男性の健康おつまみ教室」

- 【内容】**
- ・男性に料理をしてもらう。内容は希望者にヒアリングをして決定。
- 【場所】** 健康ステーション、町内会館、地域包括支援センター
- 【広報】** 行政・民間情報の掲示板(他の様々な情報も収集できる)
- 【その他】** つなぎ役としてリンクワーカーに協力してもらう。

「健康ちゃんこカフェ」

- 【内容】**
- ・健康チェックや運動、介護相談、健康講座、様々な講座と本格ちゃんこの提供
- 【場所】** 鍼灸マッサージ医院の待合室、グループホーム交流室、町内会館、地域包括支援センター
- 【広報】** 地域包括のSNS、ポータルサイト
- 【物品】** 乳製品・飲料提供、物資保管で企業協力可能
- 【その他】** 来場することで会場自体の周知につながる。

Eグループ（会場）

「ウィンドウカフェ」

- 【内容】**
- ・行けば全てのことが分かる“窓口”
 - ・ケアマネジャーや企業のつながりで医療・介護等、いろいろな悩みが解決できる。
- 【場所】** 町内会館、こども文化センター
- 【広報】** 市政だよりやタウンニュースに掲載し、各企業や市民館で配布
- 【物品】** 企業よりチラシ、食品の提供
- 【その他】** 信用金庫等、企業と協力していく。

Fグループ（会場）

「体験フェス」

- 【内容】**
- ・スポーツ体験、葬儀体験、企業のスキルを活用した教室等、様々なことが体験できるお祭りのようなイメージ
 - ・相談コーナーも設ける。
- 【場所】** 富士通スタジアム
- 【広報】** 商工会議所のネットワークを活用
- 【物品】** 企業より軽食、生花の提供が可能

Gグループ（会場）

「心を耕すカフェ」

- 【内容】**
- ・福祉サービスの相談、食事・栄養・体とのつながり等の講座
 - ・会議室で集まるだけでなく、野菜や花を育てて土を触りながらのコミュニケーション
- 【場所】** セレサ・セレサモスの空きスペースや会議室、畑
- 【広報】** 美容院で施術しながらの情報提供

Hグループ（会場）

「だれもが美しく生きるためのカフェ」

- 【内容】**
- ・男性の美容、ヨガ、ママネイル、楽しく美しくなれるカフェ
 - ・テーマに人が集まればつながりができ、誰でも相談できるカフェになる。
- 【場所】** いこいの家、教室
- 【広報】** 町会の掲示板、回覧板
- 【その他】** “誰でも”では人が来ないためテーマを絞ることにした。

Iグループ（会場）

「世代を超えた食育・スポーツ体験型カフェ」

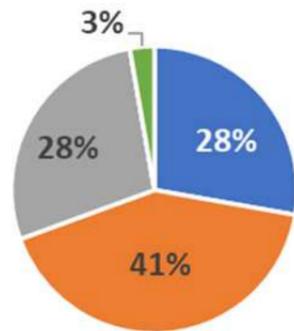
- 【内容】**
- ・障がい者を含めた幅広い世代をターゲットとしたカフェ
 - ・料理教室（病気を絡めた講演も同時に）
 - ・スポーツ選手を呼び、興味を持った子どもから親、祖父母まで全世代を対象とする。
- 【場所】** 各企業の会議室（規模によって決める）
- 【広報】** 行政、市の広報



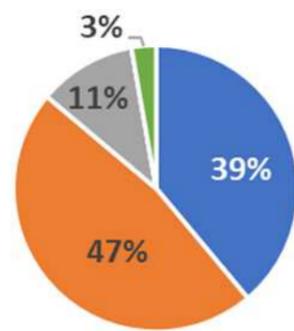
【参加者のアンケート結果】(n=36)

●今回の連絡協議会プログラムについて

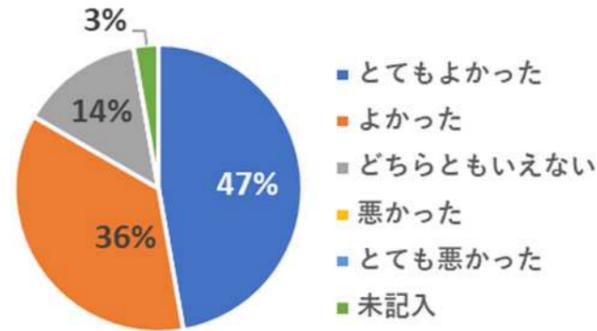
(1)地ケア構築の取組報告



(2)市内の活動紹介



(3)グループディスカッション



●連絡協議会のプログラムについて (抜粋)

(1)地ケア構築の取組報告

- ・地ケアの方向性として、予防的な視点を重視し、民間企業も含む地域の多様な主体による誰一人残さない包括的な支援体制づくりを進めるのは大変良い。
- ・「かわさき TEKTEK」が印象に残った。ウォーキングはどの年代も気軽に取り組める運動であり、自分のためにも子供達のためにもなる素敵な取組だと思った。
- ・着実に進んでいると感じた。
- ・具体的な活動や成果についての報告があるとよい。

(2)市内の活動紹介

- ・企業の利益のためだけではない、社会貢献のための取組は非常にありがたいと思う。たくさんの事例を知りたい。
- ・他社の地域に向けた活動を知る機会があまりないため、大変勉強になった。自治体等と協働することで、幅広い年齢層をターゲットにした多様なイベントが企画されており大変興味深かった。
- ・その後のグループディスカッションにつながる視点をいただけた。

(3)グループディスカッション

- ・異年齢、多職種の参加者と活発な意見交換ができた。経験の異なる人がそれぞれ持っている豊かな知識とスキルを伝え合う場になっていたと思う。
- ・多職種ならではの自由な発想が聞けて良いと思う。
- ・様々な立場の意見交流はより良いアイデアを生む。
- ・地域を良くしていくには一企業で取り組むのは限界があり、異業種で連携していく必要性を認識した。
- ・それぞれの資源を活かし、ひとつのカフェをつくる取組はイメージもでき良かった。
- ・テーマが少し難しかった。
- ・時間が足りなかった。

●今後の連絡協議会で取り上げてほしい内容 (抜粋)

(1)行政からの取組報告

- ・子供支援について
- ・独居高齢者の実態について
- ・横串、連携の事例
- ・川崎市の地ケアの課題や具体的ビジョン
- ・災害対策と地域包括ケア推進の取組連携について

(2)市内の活動紹介

- ・子ども食堂
- ・子どもたちへのキャリア教育について、官(行政)・民(企業)・学校で協働しての事業展開があると聞いた。子どものキャリア教育や大人の就労支援などについての企業の活動があれば聞いてみたい。
- ・認知症を取り巻く状況等
- ・市内の地域包括支援センターの先進的取組事例
- ・企業と地縁団体(地区社協など)が具体的にコラボしている事例を挙げ、企業側、地縁団体側両方からの意見や感想を聞いてみたい。
- ・スポーツを通じて地ケアの取組を実施しているところがあれば聞いてみたい。

(3)グループディスカッション

- ・1人暮らし高齢者で近所とのつながりもない、行政との関わりもない、お金もない人をどのように支援するか。
- ・少子高齢化が進む中で、安心して幸せな地域を作るためにどんな取組が必要か。
- ・行政サービスの案内方法、活用方法

(4)その他

- ・子育て家庭を支えるための活動について意見を出し合ってほしい。

●グループディスカッションで印象に残ったこと、他グループが発表したカフェについて (抜粋)

- ・多世代、世代を超えたという内容が多かった。
- ・他企業・団体の話を聞き、どんな業態でも連携ができることを再発見できた。
- ・「楽しい」(場所)がやはり一番大切かと感じた。
- ・グループ内のメンバーの地域や職種により、多種多様な可能性が見える。集まりやすい場所があれば可能性は大きくなる。
- ・グループ内委員のもつ潜在的コンテンツの存在が非常に興味深かった。
- ・出たアイデアを期間限定のような形でも良いので実施してみてもどうか。市民の方に連絡協議会が何をしているかを紹介できる良い機会だと思う。
- ・コミュニケーションをとる手段として「食べながら」というのは重要だと感じた。
- ・「心を耕す」という言葉が印象に残った。
- ・理容組合の方の、散髪中にお客様とざっくばらんに会話をしていることが地ケア推進の武器になるということに最近気がついたという話が印象に残った。

●その他ご意見・ご要望 (抜粋)

- ・グループディスカッションにより「顔が見える関係」ができたと思う。
- ・初めて参加したが、皆さん積極的に意見を出し合っていたのが印象的だった。団体として何ができるのか改めて考えてみたいと思う。
- ・地域ケアのネットワークを上手く使い、各地域に実際に集まって交流できればいいと思う。
- ・行政や地域の課題に対して、(本業として、あるいは社会貢献として)関わることができる企業のマッチングをするなど、具体的に進められる段階にきているのではないか。
- ・オンライン参加か会場参加かを選択できると参加しやすくなるので、この開催方法を継続していただきたい。

